

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

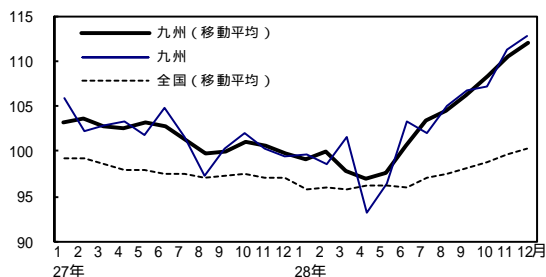
	前回(平成28年11月)	今回(平成29年2月)	
景況判断	緩やかな回復基調	緩やかに回復	
鉱工業生産	持ち直しの動き	増加	
個人消費	おおむね横ばい	底堅く推移	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

10~12月期には、輸送機械は、国内外向けの受注増による生産が増えたこと等により増加した。電子部品・デバイスは、半導体集積回路(CCD・その他)等の生産が増えたこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等の受注が落ち着いたこと等から減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		7~9月期	10~12月期	10月	11月	12月
輸送機械	24.5	7.5	17.7	7.2	8.0	2.0
電子部品・デバイス	12.3	17.7	13.4	1.2	12.2	1.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	21.5	10.7	15.2	6.7	27.1
食料品	9.6	0.5	0.3	1.2	2.5	0.6
化学・石油石炭製品	8.3	0.9	4.7	0.1	7.0	0.1
鉱工業	100.0	7.2	5.5	0.5	3.8	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

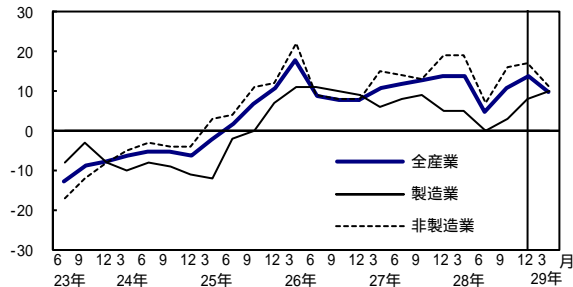
直近月は2か月平均。

(11) 九州

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

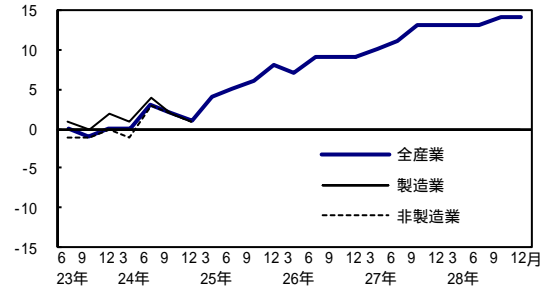
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



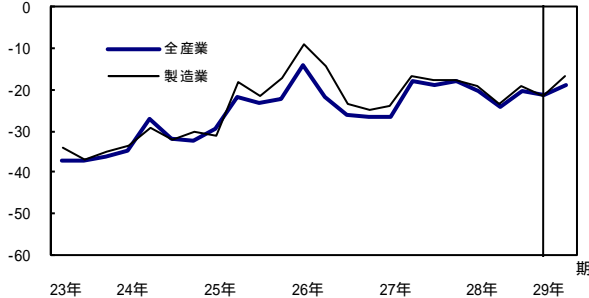
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



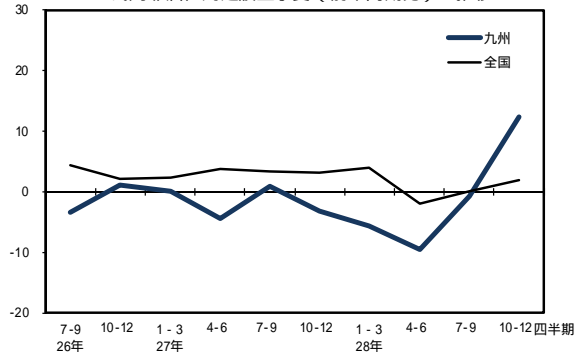
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「客からの受注量が前年比で若干上向きである(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度値
全産業	26.1	17.2 (0.4)
製造業	64.1	29.9 (1.3)
非製造業	5.8	1.2 (0.5)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。

- 2. リース会計対応ベース。
- 3. 沖縄を含む。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.4%増、11月は同0.0%減、12月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

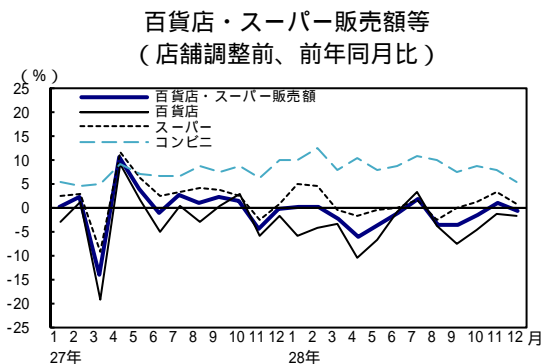
百貨店は、10月は気温高、台風などの天候不順の影響に加え、前年の地元プロ野球チームの日本一セール等の反動により、衣料品を中心に動きが鈍く、前年を下回った。11月は気温低下で冬物衣料に動きがみられたものの、飲食料品、その他の商材等の動きが鈍く、前年を下回った。

12月は高額品等に動きがみられたものの、衣料品、飲食料品等の動きが鈍く、前年を下回った。

スーパーは、10～12月は飲食料品等に動きがみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「今月からセールに入ったが30%引きでは非常に厳しい状況である。50%引きでも従来であれば2点購入するところ1点であったり、購買態度が非常に慎重である。特にシニア層の売場で苦戦している (衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	28年10-12月	10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.0	0.4	0.0	0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.4	1.5	1.1	0.7
百貨店(*3)	2.5	4.5	1.5	1.9
スーパー(*3)	1.6	1.2	3.2	0.6
コンビニ(*3)	7.2	8.8	7.9	5.2
乗用車(*4)	7.2	3.3	9.5	8.9
(季節調整値)(*4)	3.2	2.6	0.2	1.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

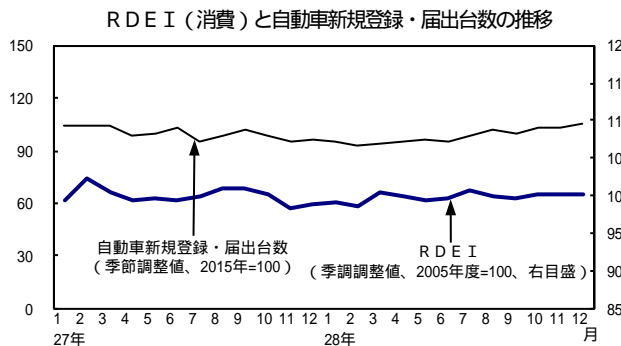
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計でみると前年度を上回っている。

